

【資料】

看護学生を対象とした自己教育力に関する文献検討

Literature Review on Self-directed Learning Ability of Nursing Students

中島奈々¹⁾ 国崎裕子¹⁾ 児玉百代¹⁾ 青木久恵²⁾

1) 福岡看護大学 看護学部、2) 福岡看護大学 看護学部 看護学科 基礎・基礎看護学部門

抄 録

本研究の目的は、国内で発表された看護学生の自己教育力に関する文献を概観し、看護学生の自己教育力を向上させる方略についての示唆を得ることである。研究テーマに沿う 18 件の看護論文を分析した結果、その全てが梶田の提唱する自己教育力の 4 側面に基づいた研究であり、そのうち 5 件で梶田の自己教育力調査票、13 件で西村の自己教育力尺度が用いられていた。看護学生の自己教育力の特徴として、18 件すべてで「Ⅰ成長・発展への志向」得点が最も高く、13 件では「Ⅳ自信・プライド・安定性」が最も低いと報告しており、このうち 7 件では、「Ⅱ自己の対象化と統制」が 2 番目に高く、次いで「Ⅲ学習の技能と基盤」であると報告されていた。自己教育力との関連では、実習、ストレス耐性、精神的健康、看護系学校への入学動機が要因として分析されていた。各側面に影響する要因として、「Ⅳ自信・プライド・安定性」では、小テストや演習のある実習、self-esteem(精神的回復力)等との関連が幾つか報告されていたが、「Ⅲ学習の技能と基盤」では 1 件のみの報告であり、「Ⅰ成長・発展への志向」「Ⅱ自己の対象化と統制」については、影響する要因に関する報告はなされていなかった。今後は、「Ⅲ学習の技能と基盤」に関する要因の分析、および「Ⅲ学習の技能と基盤」と「Ⅳ自信・プライド・安定性」との関連、縦断的研究による自己教育力の長期的変化を調査していく必要がある。

キーワード: 自己教育力, 看護学生, 看護教育, 学習方略

緒 言

1980 年代以降、わが国においては知識基盤社会の到来に加えて、グローバル化の進展、雇用形態の変容、地域社会・家族の在り方の変容など、変化の激しい予測困難な社会状況となっている。このような複雑な社会に生きる人々は、多様な考え方、価値観を有しており、これらの人々に生じている問題は簡単に単純化できる類のものではなく、出来事を正か誤りかで判断する方法や、複数の選択肢から正解を選び出すような方法では到底解決できない。むしろ、多様な人々が共生する複雑な社会においては、絶対的な正解というものは存在しない。このような社会とそこに生きる人々のニーズに対し、「様々な価値観を肯定し、対象者の個別性に応じた最

適な暮らし(well-being)」という概念、およびそれを実現するための看護実践能力を養う意義は大きい。

看護職者が自身も予測のつかない知識基盤社会を生き抜き、なおかつそのような社会で生活する対象者と向き合うには、正解のない問題に直面したとき、適切な問いを立て、入手可能な限られた情報をもとに自ら学び思考し、妥当な解に至る力が求められる。そのためには、看護職者が生涯にわたって主体的に自己を成長発展させていく能力が必要であり、これに関連した能力として「自己教育力」が挙げられる。

「自己教育力」の概念規定について兼重(1991)は、「自己教育力とは将来予想される変転の激しい社会に主体的に対応し、生涯を通じて各自が

自己教育できる形を形成することである」と述べ、具体的には「学習意欲」「学び方」「生き方」の三要素としている²⁾。

そこで本研究では、国内の看護教育分野における文献を調査し、自己教育力に関する研究の動向を明らかにし、今後の看護教育への示唆を得ることを目的とする。

研究方法

1. 分析対象論文

文献検索データベースとして医学中央雑誌 Web 版と CiNii を使用した。「自己教育力」が初めて使用された 1983 年から 2019 年現在までを期間とし、「自己教育力」and「看護」and「学生」のキーワードを用いて検索した。研究論文(原著論文、研究報告、実践報告、資料)を選定した結果、重複する文献を除いた 18 件を対象とした。

2. 分析方法

1) 論文リスト

対象論文のリストを作成し、「テーマ」「掲載雑誌名」「掲載年」「研究の種類」「分析方法」「研究内容」を項目として挙げた(表 1)。

2) 掲載年と研究デザインによる分類

前項のリストのうち、掲載年ごとに集計を行った。研究の種類は、質的研究、量的研究に分類した。

3) 倫理的配慮

倫理的配慮は、論文を正確に読み取り、著作権を侵害することがないように留意した。

結 果

1. 看護学生を対象とした自己教育力研究の文献数

分析対象となった論文 18 件の掲載年は、1983 年～1990 年 0 件、1990 年～2000 年 3 件、2001 年～2010 年 6 件、2011～2019 年 9 件であった。

2. 研究デザイン

看護学生の自己教育力を調査する研究デザインの動向として、測定尺度を用いて自己教育力各側面の得点の高低を実態調査したものや、要因に対する各種イベントの影響を調査したものがあり、そのすべてが量的横断的研究であった。

3. 研究内容

1) 自己教育力を構成する 4 側面

梶田は自己教育力の構成要素として 4 つの側面を紹介している⁴⁾。それは、「Ⅰ成長・発展への志向」とその志向性に沿って自分自身を前進させていく力の「Ⅱ自己の対象化と統制」、その前進の過程で道具的な意味を持つ学び方や基礎学力を表す「Ⅲ学習の技能と基盤」、および安定した土台の上に乗っての前進を可能にする心理的基盤となる「Ⅳ自信・プライド・安定性」の 4 つである。

第三の側面「Ⅲ学習の技能と基盤」に関しては、上記で触れた通り他 3 側面とは性質が異なるため具体的に述べる。「Ⅲ学習の技能と基盤」は学校教育で直接的に形成される具体的な形での学力である。これは、情報を自分なりに収集し処理するといった自学自習のための知識や技能である「学び方の知識と技能」の視点と、各教科で基本・基礎となる学習の理解と技能である「基礎的基本的な学力」の視点で構成されている。この側面は学習によって獲得していくという要素が強いという点が特徴的である。

2) 自己教育力の調査指標

論文に用いられている自己教育力尺度は、梶田の自己教育力調査票(1985)と西村の自己教育力尺度(1995)であった。どちらの尺度とも、質問に対する回答を「はい・いいえ」の 2 件法とし、それぞれに点数を配してその合計得点で自己教育力を数量化するものである。

(1) 梶田の自己教育力調査票

梶田の自己教育力調査票とは、自己教育力のⅠ、Ⅱ、Ⅳの側面が、具体的に対象にどのように実現しているかを見るために、それぞれ 10 項目の内容からなる合計 30 項目の質問調査票である³⁾。

表1. 文献一覧

No	著者	テーマ	年	デザイン	使用尺度	自己効力感の側面	要因	概要 (自己教育力と変数要因との関連結果)
1	森千鶴 他	看護短期大学学生の自己教育力に関する研究-学年別にみた自己教育力に関するアンケートの所見-	1992	量的研究	梶田	I、II、IV	なし	IVが最も低い
2	佐藤みづ子 他	自己教育力と家庭での学習状況との関連	1998	量的研究	梶田	I、II、IV	家庭学習	家庭学習状況は自己教育力形成に影響あり
3	酒井明子	看護学生の自己教育力に関連する要因-Self-esteemの高低に焦点をあてて-	2000	量的研究	梶田	IV	self-esteem (精神的回復力)	IVはself-esteemの高低に影響している
4	梅橋操子	基礎実習前後における自己教育力の変化	2004	量的研究	西村	I～IV	基礎実習	I > II > III > IV 実習による変化はなかった
5	山本美紀 他	自己教育力の基礎看護学実習前後の変化と学年別特徴	2006	量的研究	梶田	I、II、IV	基礎実習	I > IV 実習による変化は調査学年によって異なる
6	多久島寛孝 他	自己教育力に影響を及ぼす要因の分析	2006	量的研究	西村	I～IV	なし	I > IV
7	南修子 他	成人看護学実習における学生の自己教育力に影響する要因の検討	2006	量的研究	西村	I、IV	成人看護学実習	I > IV 実習による変化はなかった
8	道廣睦子 他	看護大学生の自己教育力に影響する要因-ローカスオブコントロール、ストレス耐性、高校時代の委員会活動の影響-	2008	量的研究	西村	I～IV	ストレス耐性	I > II > III > IV ストレス耐性の高い学生は自己教育力も高い
9	松澤洋子 他	看護大学生の自己教育力に関する研究-自己教育力の学年による違いと卒業後の進路決定-	2010	量的研究	梶田	I、II、IV	なし	I > IV
10	榮玲子 他	自己教育力の推移および達成動機との関連-3年次における領域別看護学実習前後の分析-	2011	量的研究	西村	I、III、IV	領域別看護学実習	I > IV 実習によって向上する
11	遠藤恭子 他	看護学生の自己教育力と精神的健康との関係	2011	量的研究	西村	I～IV	精神的健康	I > II > III > IV 精神的健康が認められる学生は自己教育力も高い
12	羽畑正孝 他	看護学科学生の「自己教育力」を高めるための効果的な支援のあり方-国家試験の学習への取り組みに焦点をあてて-	2012	量的研究	西村	I～IV	国家試験	I > IV 全学年で国家試験学習への取り組みと相関がみられた
13	梶本朋子 他	看護学生の入学動機と自己教育力との関連	2012	量的研究	西村	I～IV	入学動機	I > II > III > IV 自発的な入学動機を持つ学生は自己教育力も高い
14	道廣睦子 他	大学教育における基礎ゼミが看護学生の学習意欲、学習成果及び自己教育力に及ぼす影響	2014	量的研究	西村	I～IV	基礎ゼミ	Iが最も高い 基礎ゼミが自己教育力を高める傾向にあった
15	下川原久子	看護学生における自己教育力とレジリエンス(1)-ゼミ生から考察-	2014	量的研究	西村	I～IV	レジリエンス	I > II > III > IV レジリエンスと自己教育力の高低が比例するとはいえなかった
16	服部紀子 他	看護学士課程2年次生の自己教育力と看護実践能力との関連	2015	量的研究	西村	I～IV	なし	Iが高い
17	今村圭子 他	基礎看護技術を学習する看護学生の自己教育力に影響する要因の分析	2018	量的研究	西村	I～IV	小テスト	I > II > III > IV 小テストとの相関がみられた
18	菊池美保子 他	小児看護学実習後の学生のルーブリック評価と自己教育力との関係	2018	量的研究	西村	I～IV	なし	I > II > III > IV

側面Ⅲについては、以下で述べるように性質が異なるため、梶田のものには調査項目として挙げられていない。本研究で分析対象とした論文で、梶田の自己教育力調査票を使用していたものは5件であった(文献番号1, 2, 3, 5, 9)。

(2) 西村の自己教育力尺度

西村は、梶田の未作成の側面Ⅲの項目を作成し、I、II、IVの項目についても一部修正検討を加え合計40項目からなる尺度を作成した⁶⁾。本研究で分析対象とした論文で、西村の自己教育力尺度を使用していた論文は13件であった(文献番号4, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18)。

3) 各側面の得点の高低

分析対象となった18論文のうち、看護学生の特徴として、18件すべてで「I成長・発展への志向」が高いと述べられており(100%)、そのうち13件では「IV自信・プライド・安定性」が最も低いと述べられていた(72.2%) (文献番号5, 9, 4, 13, 15, 17, 18)。また「I成長・発展への志向」に次いで、「II自己の対象化と統制」、「III学習の技能と基盤」、「IV自信・プライド・安定性」の順で得点が低くなると述べている論文が7件(38.9%)であった(文献番号4, 11, 13, 14, 15, 17, 18)。このことから、看護学生の特徴として「I成長・発展への志向」が高く、「IV自信・プライド・安定性」が低いということ

が先行研究より明らかになっていた。

4) 自己教育力に対する各側面の影響力

自己教育力総得点に対する各側面の影響力の大小について調査している研究は1件であった¹²⁾。多久島らは、看護学生の自己教育力総得点に対する影響が大きいのは「Ⅲ学習の技能と基盤」および「Ⅳ自信・プライド・安定性」であると述べている。これは、自己教育力総得点に占める各側面の得点割合ではなく、重回帰分析によってその影響力の大小を調査研究したものであった。

5) 自己教育力と実習との関連

自己教育力と各種実習との関連について調査している研究は4件であった(文献番号4, 5, 7, 10)。実習によって自己教育力が上昇すると述べているものが1件(文献番号10)、実習による自己教育力の変化はなかったと述べているものが2件(文献番号4, 7)、実習によって自己教育力が上昇する学年もあれば低下する学年もあったと述べているものが1件であった(文献番号5)。これらを見る限りでは、自己教育力に対する実習の影響の結果が一致していなかった。

6) 自己教育力に影響する変数との関連

自己教育力に影響を与える要因との関連を明らかにしようとする研究は4件あった(文献番号3, 8, 11, 13)。ストレス耐性が強い学生は自己教育力も高いと述べているものが1件(文献番号8)、看護系学校への自発的な入学動機や自発的な看護職志望動機を持つ学生は自己教育力も高いと述べているものが1件(文献番号13)、精神的健康を有する学生は自己教育力も高いと述べているものが1件(文献番号11)、self-esteem(精神的回復力)が高い学生は自己教育力も高いと述べているものが1件であった(文献番号3)。このように、自己教育力に影響する要因として、いくつかの個人特性が挙げられていた。

7) 各側面に影響する要因

看護学生の自己教育力の特徴として、最も低いということが明らかになっている「Ⅳ自信・プライド・安定性」側面に影響する要因が調査されている研究は7件であった(文献番号

3, 4, 6, 10, 11, 17, 18)。このうち達成動機を得ることが「Ⅳ自信・プライド・安定性」の側面を上昇させると述べているものが3件あり(文献番号3, 10, 17)、その達成動機を得るために有効なものとして小テストや演習のある実習が挙げられていた(文献番号4, 17)。また「Ⅲ学習の技能と基盤」の側面が高いことで困難な学習に立ち向かうことができ、それによって達成感が得られると述べているものや(文献番号11)、実習到達目標を明示することで学習意欲や課題達成感を与えるルーブリック評価表と自己教育力との関連を述べているものなど(文献番号18)、達成動機を得る事が「Ⅳ自信・プライド・安定性」を高めるという前提に立ち、その周辺要因を調査しているものもあった。さらに、「Ⅳ自信・プライド・安定性」の側面はすなわち自尊感情であるという前提を置き、これを高めるためには目標設定が重要であると具体的方略を述べているものや(文献番号6)、self-esteem(精神的回復力)と「Ⅳ自信・プライド・安定性」の深い関連について述べているものもあった(文献番号3)。一方、最も高いとされる「Ⅰ成長・発展への志向」に関しては、看護系学校に入学した時点で「看護師・保健師・助産師になりたい」という明確な目標を持っている学生が大半であることから、この側面が高いことに矛盾はないと述べるにとどまるものが大半であった。また「Ⅱ自己の対象化と統制」に関連する要因が調査されているものはなく、「Ⅲ学習の技能と基盤」に関連する要因に触れられているものは1件だけであった(文献番号11)。このことから、先行研究では「Ⅳ自信・プライド・安定性」に関する要因について調査されているものはあるが、その他3側面に関する要因が十分に調査されているものはなかった。

考 察

1. 自己教育力に影響する変数について

本研究で分析対象とした論文では、ストレス耐性や看護系学校への入学動機の有無、精神的健康の有無やself-esteem(精神的回復力)の高低などが自己教育力全体ないし「Ⅳ自信・プラ

イド・安定性」側面に影響する変数要因であるということが明らかになっていた。これらが自己教育力に影響を与えることは確かではあるけれども、あくまでも周辺要因であって、自己教育力の本質に迫るものではないと考えられる。すなわち、これら周辺要因の有無や高低が自己教育力の全体ないし一側面に影響を与えてとしても、果たして自己教育力総得点の変化がこれら周辺要因に影響を及ぼすものであるのかは疑問である。自己教育力に影響する変数要因について調査することも必要であるが、自己教育力そのものの変化を長期的に調査研究し、変数要因との相互関連性を明らかにしていく必要がある。またそれによって自己教育力そのものに直接的に働きかけて、その向上を図る方略を研究していく必要がある。

2. 「Ⅲ学習の技能と基盤」と「Ⅳ自信・プライド・安定性」との関連

本研究では看護学生の自己教育力の特徴として「Ⅳ自信・プライド・安定性」の側面の得点が最も低く、次に「Ⅲ学習の技能と基盤」の側面の得点が低いということが明らかになった。

まず「Ⅳ自信・プライド・安定性」について述べると、これは他3つの側面を最も深いところで支えている心理的な安定性を表している側面であり、自信を持っているか、プライドを持っているか、心理的に安定しているかどうかということである。これに関しては、他3つの側面を支えている重要な側面であるにも関わらず、どの調査においても最も得点が低いという重大性からすでにいくつかの研究がなされている。次に、「Ⅲ学習の技能と基盤」について述べると、この側面について言及している研究は1件⁴⁾だけであった。これは、この側面の特異的な性質として「学習によって獲得していく」という面が強いことと関係があると考えられる。すなわち、本研究で分析対象とした論文がすべて横断的研究であり、「学習によって獲得していく」その過程を追跡調査できていないためである。

「Ⅲ学習の技能と基盤」について唯一言及していた遠藤らの調査によると、自己教育力の高い学生は「Ⅲ学習の技能と基盤」の側面の得点

が高いということが明らかになっており、こうした学生は困難な学習場面に直面したときにも、既得した学び方の知識や技能によってこれをうまく乗り越えていけることから、達成感を得て自己を肯定できると述べている⁵⁾。本研究では、ここに「Ⅲ学習の技能と基盤」と「Ⅳ自信・プライド・安定性」の関連を見出す。「Ⅲ学習の技能と基盤」側面の得点が高く、既得した学び方によって困難な学習を乗り越え達成感および自己肯定感を得た学生は、「Ⅳ自信・プライド・安定性」側面の得点も上昇すると推察できる。このことから、看護学生の自己教育力総得点に影響の大きい「Ⅲ学習の技能と基盤」と「Ⅳ自信・プライド・安定性」の関連を明らかにすること、および「Ⅲ学習の技能と基盤」に関連する個別的要因を今後調査していくことは、看護学生の自己教育力総得点を向上させるために最も効果的であると考えられる。

結 語

1. 研究デザインとしては量的横断的研究のみであり、看護学生の自己教育力を測定する尺度としては、梶田の自己教育力調査票と西村の自己教育力尺度が用いられていた。
2. 看護学生の自己教育力の特徴として、「Ⅰ成長・発展への志向」側面の得点が最も高く、「Ⅳ自信・プライド・安定性」側面の得点が最も低いということが共通した結果であった。
3. 自己教育力に影響する要因として、実習、ストレス耐性、精神的健康、看護系学校への入学動機についての研究がなされていた。
4. 各側面に影響する要因として、「Ⅳ自信・プライド・安定性」側面では小テストや演習のある実習、self-esteem(精神的回復力)についての研究がなされていたが、「Ⅰ成長・発展への志向」および「Ⅱ自己の対象化と統制」に関する研究はなかった。「Ⅲ学習の技能と基盤」側面に関する要因を調査した研究は1件のみであった。

本研究においてすべての著者には、申告すべき利益相反事項はない。

引用文献

- 1) 文部科学省(2015)：教育課程企画特別部会論点整理。
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/singi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf (2019.8.20)
- 2) 兼重宗和：自己教育力について。徳山大学論叢, 35, 93-105, 1991
- 3) 梶田叡一：自己教育への教育, 明治図書, 1985
- 4) 遠藤恭子, 米澤弘恵, 石綿啓子 他：看護学生の自己教育力と精神的健康との関係。獨協医科大学看護学部紀要, 5(2), 35-50, 2011
- 5) 西村千代子, 奥野茂代, 小林洋子 他：看護婦の自己教育力—自己教育力測定尺度の検討—。日本赤十字社幹部看護婦養成所紀要, 11, 22-39, 1995
- 6) 森千鶴, 佐藤みつ子, 森下節子 他：看護短期大学学生の自己教育力に関する研究—学年別にみた自己教育力に関するアンケートの所見—。日本看護研究学会雑誌, 15(4), 24-35, 1992
- 7) 佐藤みつ子, 森千鶴：自己教育力と家庭での学習状況との関連。山梨医大紀要, 15, 22-27, 1998
- 8) 酒井明子：看護学生の自己教育力に関連する要因—Self-esteemの高低に焦点をあてて—。福井医科大学研究雑誌, 1 (1), 113-128, 2000
- 9) 山本美紀, ニッ森栄子：自己教育力の基礎看護学実習前後の変化と学年別特徴。日本赤十字北海道看護大学紀要, 6, 19-26, 2006
- 10) 松澤洋子, 鈴木恵美子：看護大学生の自己教育力に関する研究—自己教育力の学年による違いと卒業後の進路決定—。大阪市立大学看護学雑誌, 6, 19-26, 2010
- 11) 梅橋操子, 多久島寛孝, 三村孝俊 他：基礎実習前後における自己教育力の変化。保健科学研究誌, 1, 105-112, 2004
- 12) 多久島寛孝, 山本勝則, 弓掛和恵 他：自己教育力に影響をおよぼす要因の分析。保健科学研究誌, 3, 49-60, 2006
- 13) 南修子, 園田麻利子, 七川正一 他：成人看護学実習における学生の自己教育力に影響する要因の検討。鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要, 10, 26-37, 2006
- 14) 道廣睦子, 藤田佳子, 浅井美穂 他：看護大学生の自己教育力に影響する要因～ローカスオブコントロール, ストレス耐性, 高校時代の委員会活動の影響～。宇部フロンティア大学看護学ジャーナル, 1 (1), 1-8, 2008
- 15) 榮玲子, 植村裕子, 松村恵子：自己教育力の推移および達成動機との関連—3年次における領域別看護学実習前後の分析—。香川県立保健医療大学雑誌, 2, 59-63, 2011
- 16) 羽畑正孝, 武田弘美, 谷口由佳 他：看護学科学生の「自己教育力」を高めるための効果的な支援のあり方—国家試験の学習への取り組みに焦点をあてて—。神戸常盤大学紀要, 5, 2012
- 17) 榎本朋子, 田邊美津子：看護学生の入学動機と自己教育力との関連。川崎医療短期大学紀要, 32, 7-13, 2012
- 18) 道廣睦子, 瀬戸口要子, 掛川静代 他：大学教育における基礎ゼミが看護学生の学習意欲, 学習成果及び自己教育力に及ぼす影響。大阪青山大学紀要, 7, 19-28, 2014
- 19) 下川原久子：看護学生における自己教育力とレジリエンス (1) —ゼミ学生から考察—。八戸学院短期大学研究紀要, 38, 77-92, 2014
- 20) 服部紀子, 中村博文, 林さとみ 他：看護学士課程2年次生の自己教育力と看護実践能力との関連。横浜看護学雑誌, 8(1), 39-48, 2015
- 21) 今村圭子, 山口さおり, 中俣直美 他：基礎看護技術を学習する看護学生の自己教育力に影響する要因の分析。鹿児島大学医学部保健学科紀要, 28(1), 31-39, 2018
- 22) 菊池美保子, 原田美枝子, 前山直美：小児看護学実習後の学生のルーブリック評価と自己教育力との関係。神奈川歯科大学短期大学部紀要, 5, 35-40, 2018

Literature Review on Self-directed learning Ability of Nursing Students

Nana Nakashima¹⁾ Yuko Kunizaki¹⁾ Momoyo Kodama¹⁾ Hisae Aoki²⁾

1) Fukuoka Nursing College, Faculty of Nursing, Department of Nursing, 2) Fukuoka Nursing College, Faculty of Nursing, Department of Nursing, Division of Basic Medical Sciences Fundamental Nursing

Key Words:Self-directed Learning Ability, Nurse Students, Nursing Education, Learning Strategy

The purpose of this study was to review literature published in Japan on self-directed learning ability in nursing students in order to obtain some insight into strategies to improve such ability. An analysis of 18 nursing articles suitable for our study theme revealed that all articles were based on the four domains of self-directed learning ability proposed by Kajita. Out of these, five articles used Kajita's self-directed learning ability questionnaire and 13 used Nishimura's self-directed learning ability scale. The self-directed learning ability of nursing students was characterized by the highest scores in Domain (I) Intention for Growth and Development across all 18 articles. Scores for (IV) Self-confidence, Pride, and Stability were reported as the lowest in 13 articles. Scores for (II) Self-Objectivity and Control were the second highest in seven articles, followed by (III) Skill and Basis for Studying. Factors analyzed in association with self-directed learning ability included practical training, stress tolerance, mental well-being, and motive for admission to nursing school. (IV) Self-confidence, Pride, and Stability were associated with short examination, practical training with drills, and self-esteem (psychological resilience) in some reports, but only one study reported for (III) Skill and Basis for Studying, and there was none for (I) Intention for Growth and Development and (II) Self-Objectivity and Control.

Further studies are warranted for analyzing factors related to (III) Skill and Basis for Studying, examining the association between (III) Skill and Basis for Studying and (IV) Self-confidence, Pride and Stability, and tracking changes in self-directed learning ability in the long term by a longitudinal study.